



令和元年 9月 19日

ご関係の皆様方へ

大阪市立東三国小学校
校長 原 雅 史

東三国小 「主体的・対話的で深い学びのある授業」研究

第2回 全市公開授業のご案内

初秋の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

前回6月20日に行いました第1回公開授業では、50名近くの方にご参加いただき、まことにありがとうございます。スーパーバイザーの小畠先生から、「主体的・対話的で深い学びのある授業」につきまして、示唆に富んだお話をいただき、参加された先生方には大変好評がありました。

さて、前回では本当によちよち歩きの本校のリアルな姿を公開し、皆様とともに考えながら前に進もうとしておりましたが、今回はそこからは少しだけ成長した姿をお見せできるかと、しかしまだまだな部分も多々ありますので、引き続き皆様からご指導をいただくことができればと考えております。特に、今回は深い学びに向かう「ジャンプの課題」を各自が十分に練り、温めてきたものをご準備しております。ご参加された先生方には、明日からの授業で即使える指導デザインではないかと思っておりますが、このあたりにつきましても、皆様方とともに考えてまいりたいと思います。

修学旅行、運動会など大きな学校行事が続くこの頃ではございますが、どうぞ万障お繰り合わせのうえ、ご参加くださいますよう、お願ひ申しあげます。

記

1 開催日時

	実施日	中心授業	スーパーバイザー
済	全市公開授業 6月20日(木)	5年生社会科 「水産業」	小畠 公志郎
第2回	全市公開授業 10月10日(木)	6年生算数 「速さ」	小畠 公志郎
第3回	全市公開授業 1月29日(水)	未定	小畠 公志郎
	全市公開教育授業 2月20日(木)	未定	佐藤 学

ビデオ授業研究会は年間10回を予定。詳細は別紙をご参照ください。

・スーパーバイザー 佐藤 学 先生 元東京大学大学院教授 日本教育学会元学長 学習院大学教授

著書『学び合う教室・育ち合う学校：～学びの共同体の改革～』他多数

・スーパーバイザー 小畠 公志郎 先生 元宝塚市立小学校校長

著書『授業づくりで 子どもが伸びる、教師が育つ、学校が変わる』など

2 会場 大阪市立東三国小学校 〒532-0002

大阪市淀川区東三国6-3-24 電話 6391-0366・大阪メトロ御堂筋線「東三国駅」下車 西北へ500m

3 公開授業 時程 (公開授業①②では全学年全クラスの公開を予定しています)

10:00 10:45 11:30 11:40 12:25 13:45 14:30 14:45 15:30 17:00

受付	公開授業 ①	公開授業 ②	休憩	中心授業	休憩	研究 協議	スーパーバイザー 講話
----	-----------	-----------	----	------	----	----------	----------------

4 申込方法 ① スキップメール 大阪市立東三国小学校 教頭 千葉 法幸 まで

② FAX 後のページのFAX送信票でお申し込みください。

「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくり

学びの共同体研究プロジェクト

「ケアする心」を育む

新学習指導要領の完全実施を目前に控え、「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくり論が、各所で盛んになってきております。子どもを主体的に学ばせるには、教師はしゃべりすぎない方がいいとか、対話的に授業を進めるには、子ども同士の意見をつなぐ、そのためには、発言には「子どもの名前」を入れるといいとか、そして深い学びに向かうには、教科書レベルを超えた少し難しい「ジャンプの課題」を行うと良いなど、だいぶ具体的な話が出てきており、新しい授業スタイルの姿がだんだんと露になってきていると思われます。

また、教室の机の配置も、前述の授業を実践するのであれば、コの字であるとか、男女千鳥の4人班が良いことなども、本校での研修では繰り返し述べてきました。しかし、これらを行えばすぐに「主体的・対話的で深い学びのある授業」が実践できるのでしょうか。

実は、この夏にある研修会でみた授業ビデオに、大きな衝撃を受けました。中部地方のある小学校の2年生の国語『おてがみ』の授業で、授業開始から約15分間子どもたちは音読に没頭していました。文学、物語の授業では音読が重要と言われておりますが、2年生ながらにして、非常に集中して音読していました。

具体的には、最初は、机を横に並べた男女二人がペアとなり、各自の教科書を使って、句読点ごとに男女が交代して読んでいくペア読みをしていました。しかし数分後には、いくつかのペアが、教科書を二人の間に1冊だけおいて、相手が読んでいるときは、指で読んでいるところ追いかける「指読み」に移り変わっていました。

音読は、もちろん本来は一人1冊の本で行うべきとは思いますが、特に小学校低学年や、学力の低い子どもの場合は、一人では読めないことも少なくありません。よく国語の授業などで、一斉読みをしている授業の子どもを丁寧に観察しますと、全然読んでいない、あるいは口をもごもごと動かしているだけの子どもを見かけます。しかも得てして、最もきちんと読んでほしい子どもほど、読んでいいないです。授業者は、全体の大きな声にかき消され、授業の事実、読めていない子どもの「わからなさ」が見えにくくなっているのかもしれません。

そこで、本年度の本校スーパーバイザーの小畠先生は、前回の公開授業で、2人一組の「ペア読み」の音読を推奨され、今ではいろいろな教室で、国語だけではなく、社会、道徳などで様々な授業で行われてきています。

ところで、この「ペア読み」音読には、指導上難しいところが1カ所あります。それは、「早く読み終わったペアをどうするか」です。よく行われているのは、もう一度読ませる「二度読み」。しかし、これにも短所があり、次々と二度読みが始まると、一番読みが遅い子どもを授業者がつかみきれなくなりがちです。また、早くすらすら読む子というのは、字面だけ読んで、中身を読み味わっていないことが少なくありません。そのような浅い読みを何度もやっても、教育的効果は高くありません。では、早く読み終えた子どもには、どう指導するべきなのでしょうか。

それは、周りの声を「聞く」という指導です。具体的には、自分の周りの声をよく聞いて、情景や登場人物の心情に思いを馳せながら、静かに周りの子と同じところを黙読していくように指導します。同時に、その読みの遅い子に、心の中でエールを送るようにも指導します。そうすると、だんだんと読みが終わった子が、周りの声に耳をそばだてて、最終的には、最も遅い子の読みに、シンクロしていきます。

しかも、このビデオでは、最も読みが遅いペアのうち、女の子の読みがたどたどしいとわかると、途中から相手の男の子は、自分のところだけではなく、女の子のところも一緒に声をそろえて、相手のペースで声を重ねて読んでいました。

こうして、途中からは、このペアの声だけが、つっかえつかえながらも読む声が、静かな教室の中に小さく響いていました。そうして、なんとか最後まで読み終えると、クラス全体に安堵感、さらには「よく読めた！」という温かな達成感にあふれています。

この「ペア読み」が最後までできるというのは、なかなか大変なことで、授業者の担任の先生はさぞやご苦労されたことと思い、研修後にどのような工夫をされたのですか？とたずねてみました。すると、「そんなに特別なことはしていません」と。また子どもたちが途中から二人一組で教科書を見ていましたが、何か指示されているように見えませんがとたずねると、「あれは、子どもたちが自分の判断でやっています」と。では、どうしたらこんな素敵なクラスができるのでしょうか。

詳しくたずねると、「この子たちなので、それほど難しいことはさせていません。ただ、この学校の教育目標「どの子も安心して学べる教室をめざす」に近づくために、つねに『おとなりさんを、気遣ってあげてね』とは、言い続けています。」とのこと。それだけで、だんだんと教室にやさしさが満たされていき、自然と教科書のペア読みや、読み終わった子どもが、静かにクラスで一番遅い友だちの読みを追うという状態がつくれたそうです。

「主体的・対話的で深い学びのある授業」をつくるためには、教師はしゃべりすぎない方がいいとか、机をコの字にすればいい…などなど、これらは全て「方法論」にしか過ぎず（もちろん重要な教育指導技法ではあります）が、大切なのは、子どもたちに「周りの人間に気遣いのできる人」「ケアする心」を育む「理念」を礎にし、その上で教師が「全ての子どもの学びを保障する授業」をつくっていくことではないでしょうか。

最後に、このようなお話をすると、「それは、あのクラスだからできた」とか「あの学校は熱心な地域だから」という声を聞きますが、本当にそうでしょうか。ちなみに、今回紹介したこのクラスは、32人のうち、16人が外国にルーツのある子どもで、国もブラジル、ボリビア、フィリピン、ウクライナと4カ国に渡り、日本語で指示を出しても、ほとんど伝わらず、1年生の入学当初は本当に毎日が大騒ぎで、静かな学習環境からはほど遠い状況にあったそうです。それが、「お隣さんに、気遣いしてね」と言い続けることで、主体的・対話的で深い学びのあるクラスができていったということです。このことから、このペア読み、ケアする心の育成は決して特殊な事例ではなく、どんな学校でもどんな学級でも実現できる話だと私は確信しています。

これからも、本校では、自らの「方法論」「指導技術論」に終わることなく、今回の新学習指導要領の目的や、根底に流れてるものを感じながら、子どもたちにとって最良のものを、最高の方法で育んでいきたいと思います。そして、そのためには公開授業を重ねて、教師の指導力を高め、研究協議を通して、教育に対する見識を広げ、参加された全ての先生方と学び合っていきたいと考えております。

参考 **日本国憲法 第二十六条** すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。**教育基本法 第四条** すべて国民は、ひとしく、その能力に応じた教育を受ける機会を与えられなければならない、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されない。

3 研究概要

- (1) 全体研究テーマ 「すべての子どもの学びを保障し、生きる力を育む」
今年度東三国小学校では、教科・領域は決めないで、「協同学習」「学びの共同体」を研究テーマにして、各個人が個人研究のテーマを設定します。
- (2) 個人研究：各自がこの1年間研究したい教科、領域を自由に選び、研究を進める。

4 研究計画

月	日	曜	公開教育	全市公開	ビデオ研	校内研修	講師	ビデオ研の担当学年、研修テーマなど
4	1	月			A 1	校長		学びの共同体とは
	10	水			A 2	校長		協同学習の授業
	23	火		1				2年・4年・5年
5	24	金		2				1年・3年・5年
6	7	金			A 3	校長		公開授業に向けて
	20	木	1			小畠 sv	5年社会	6/14にプレ研究会
7	5	金		3				2年・4年・6年
	24	水			A 4	校長		1学期を振り返って
	25	木			A 5	校長		1学期を振り返って
8	21	水			A 6	校長		2学期に向けて
9	20	金		4				1年・理科4年・5年
10	10	木	2			小畠 sv	10/4にプレ研究会	
	25	金		5				2年・3年・6年
11	15	金		6				1年・3年・5年
12	6	金		7				2年・4年・理科
	25	水			A 7	校長		2学期を振り返って
1	17	金		8				1年・4年・6年
	29	水	3			小畠 sv	1/24にプレ研究会	
2	7	金		9				2年・理科4年・6年
	20	木	○			佐藤 sv	2/14にプレ研究会	
3	6	金		10				1年・3年・理科
	25	水			A 8	校長		1年間を振り返って

(1) 全市公開「教育研究会」(年1回)

年に一度だけ行う公開授業で、1年間の総まとめ的なものです。スーパーバイザーには元東京大学院教授の佐藤学先生にお越しいただき、スーパーバイズしていただき、さらには講演会も開いていただける予定です。大阪市内の公立小中学校では久しぶりの講演となり、協同学習の提唱者として、新学習指導要領に向けて、これからどのような準備をしないといけないのか、今の教育の最先端の話なども聞けることかと思います。ぜひ多くの皆様のご来場をお待ちしております。

1) プレ研究会

- ①管理職、教務主任、研究部長、教科主任、学年教員などで実施
- ②「授業デザイン」を中心に教材、課題、思いなどを語り合う時間とする

2) 当日のタイムテーブル

10:30 受付開始 来校者は講堂などで待機 SVのお迎え。

3限・4限 公開授業 (全員、どちらかの授業を公開する)

校長はSVと共に各教室を回ります。

(昼休み SVから直接授業のコメントをもらう)

(授業クラスは、机椅子を体育館に運び込む 参加者人数による)

13:45 中心授業 (他学級は、給食後すぐに下校)

14:30 終了 児童はすぐに下校 (机・椅子はそのままで)

14:45 研究協議 (グループ→全体)

15:30 スーパーバイザー講話

(記録は、教務部。授業者は簡単な振り返りコメントを後日出す。)

(2) 全市公開「授業研究会」(年間3回 SV=小畠公志郎)

概要は同上です。年3回同じスーパーバイザーにご来校いただき、継続的、計画的な指導をいただく予定です。

(3) 校内授業研究会(ビデオ研)

1) 2つの学年が合体(チーム学年)して、ビデオを使って研究協議会を行う

2) ながれ

① 4月1・2日のチーム学年会で1~11の研究会の授業者を決める

② 授業前に全教員に授業デザインと座席表を配布

③ 授業当日は全教員が見学しても良いことにする。(学年教員はできるだけ参加)

④ 各自分が自分の授業をビデオに撮る(斜め前から)

⑤ 後にビデオ研究会

・授業した教室のモニターを使う

・チーム学年+担外等で、ビデオをみながらゆっくり授業について語り合う

【研究協議会での約束】

1. 授業づくりの奥深さ、面白さを共有し、自分がその授業から何を学んだのか、自分が真似できることは何かを語る。

2. 決して授業の批判はしない。「自分なら…」という発言もできるだけ控える。

3. 授業の中で、授業者が「聴く」「つなぐ」「もどす」をどのように展開していたかを語る。

「聴く」 …子どものつぶやきをひろう

「つなぐ」 …子どもの発言つないでいく

「もどす」 …全体が行き詰ったときなどは、教科書の音読、グループの交流に戻す

4. 同僚が授業を公開したことに対して感謝の念を込めて、全員が話す。

5. 「子どもの学び」についてたくさん語る。

ーできていない子どもだけでなく、がんばっている子ども、関わっていない子どもに注目する

ーどこで学びが成立したのか丁寧にひろう

「○○分ごろに、Aさんの△△という発言でBさんの表情が変化してたよ。」

「◇◇分に、Cさんのわからないを聞いてDさんが説明をはじめ、自分の勘違いに気づいてたよ」など

3) 当日のタイムテーブル

- 14:35 5限 授業終了
15:00 3か所（低・中・高）それぞれビデオ授業研究会開始
（当日、どこで行われているかは、職員室でおたずねください）
17:00 終了
- 4) 教育センターの指導主事（当該教科）を招聘（SVでも可）
5) 各チーム学年で、ビデオ研修会の記録を行う。
⇒校務支援PC内にフォルダをつくり、定期的に「研究部通信」を発行する。
⇒研究部通信をもとに、年度末に研究紀要を作成する。

(4) 教材研究日 毎週金曜日（15:30～17:00）

- 1) 他に行事などが入っていない場合は、教材研究に集中して取り組む
2) 1週間の振り返り、翌週の教材研究などを行う
3) 各個人で実施してもいいし、チーム学年で行っても良いものとする

FAX送信票

FAX番号 06-6391-1998

全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込 参加申込書

送付先 大阪市立 東三国小学校

教頭 千葉 法幸

TEL 06-6391-0366

FAX 06-6391-1998

送付元	所属名(学校名)			
	ご担当者			
送付期日	各公開授業・研究会の3日前まで			
件名	全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込			
参加者	職名	お名前	参加希望日	

【お問合せ先】
大阪市立東三国小学校
(電話) 06-6391-0366
教頭 千葉まで